

SPA100シリーズの地域別音声パラメータのその他の設定

目的

このドキュメントの目的は、SPA 100シリーズの地域音声設定で、その他のパラメータを設定する方法を示すことです。

該当するデバイス

- ・ SPA100シリーズアダプタ

[Software Version]

- ・ 1.3.1 (003)

地域音声のその他のパラメータの設定

ステップ1：電話アダプタ設定ユーティリティにログインし、[Voice] > [Regional]を選択します。[地域]ページが開きます。

The screenshot shows the 'Regional' configuration page in the SPA100 web interface. The 'Voice' tab is selected in the top navigation bar. The left sidebar shows a tree view with 'Regional' highlighted. The main content area is titled 'Regional' and contains a table of 'Call Progress Tones' with the following entries:

Call Progress Tones	Value
Dial Tone:	350@-19,440@-19;10(*0/1+2)
Second Dial Tone:	420@-19,520@-19;10(*0/1+2)
Outside Dial Tone:	420@-16;10(*0/1)
Prompt Tone:	520@-19,620@-19;10(*0/1+2)
Busy Tone:	480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2)
Reorder Tone:	480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2)
Off Hook Warning Tone:	480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)
Ring Back Tone:	440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)
Ring Back 2 Tone:	440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)
Confirm Tone:	600@-16;1(.25/.25/1)
SIT1 Tone:	985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)
SIT2 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)

At the bottom of the page, there are three buttons: 'Submit', 'Cancel', and 'Refresh'.

ステップ2:[Miscellaneous]セクションまでスクロールします。

Miscellaneous			
FXS Port Impedance:	600	FXS Port Input Gain:	-3
FXS Port Output Gain:	-3	DTMF Playback Level:	-16
DTMF Twist:	2	DTMF Playback Length:	.1
Detect ABCD:	yes	Playback ABCD:	yes
Caller ID Method:	Bellcore(N.Amer,China)	FXS Port Power Limit:	3
Caller ID FSK Standard:	bell 202	Feature Invocation Method:	Default

Submit Cancel Refresh

ステップ3:[FXS Port Impedance]ドロップダウンリストで、FXSポートの電気インピーダンスを設定します。Foreign Exchange Station(FXS)インターフェイスは、電話機またはファックス機器に直接接続し、呼出音、電圧、およびダイヤルトーンを供給します。オプションは次のとおりです。

- 600
- 900
- 600+2.16uF
- 900+2.16uF
- 270+750||150nF
- 220+850||120nF
- 220+820||115nF
- 200+600||100nF

ステップ4:[FXS Port Input Gain]フィールドに入力ゲインをdBで入力します。入力ゲインは10進数の3桁まで書き込むことができます。この入力値は、マイクの感度を制御します。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

ステップ5:[FXS Port Output Gain]フィールドに出力ゲインをdBで入力します。出力ゲインは10進数の3桁まで書き込むことができます。この出力値は、発動時のスピーカの感度を制御する。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

手順 6 : [DTMF Playback Level]フィールドにローカルDTMF再生レベルをdBmで入力し、最大1桁の10進数で書き込むことができます。デフォルトでは-16.0に設定されています。DTMF (デュアルトーン多重周波数) は、電話機のキーを押したときに電話機に生成される信号で、押された各キーは特定の周波数の2つのトーンを生成します

ステップ7:[DTMF Playback Length]フィールドにローカルDTMF再生時間をミリ秒で入力します。

ステップ8:DTMF再生のツイストレベルをdBminで[DTMF Twist]フィールドに入力します。

ステップ9:[Detect ABCD]ドロップダウンリストから[DTMF ABCD]のローカル検出を有効にするには、[はい]を選択します。

ステップ10:[Playback ABCD]ドロップダウンリストから[OOB DTMF ABCD]のローカル再生を有効にするには、[はい]を選択します。

ステップ11:[発信者ID方式(Caller ID Method)]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID方式を選択します。次のオプションを使用できます。

- ベルコア (中国、北米) :CID、CIDCW、VMWI。最初のリングの後に送信されるFSK (最初のリングの後に送信されるETSI FSKと同じ) (極性反転またはDTASなし) 。
- DTMF (フィンランド、スウェーデン) :CIDのみ。DTMFは、極性反転 (および

DTASなし)の後、最初のリングの前に送信されます。

- ・ DTMF (デンマーク):CIDのみ。DTMFは、極性の反転がなく、DTASのない最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF:CIDのみ。DTASの後(および極性反転なし)および最初のリングの前に送信されるDTMF。
- ・ PR付きETSI DTMF:CIDのみ。DTMFは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF After Ring — CIDのみ。最初のリングの後に送信されるDTMF(極性反転またはDTASなし)。
- ・ ETSI FSK:CID、CIDCW、およびVMWI。FSKはDTASの後(ただし、極性反転は行わない)、最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。
- ・ PR付きETSI FSK(英国):CID、CIDCW、VMWI。FSKは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。極性反転は、機器がオンフックの場合にのみ適用されます。
- ・ PR付きDTMF(デンマーク):CIDのみ。DTMFは、極性反転(およびDTASなし)の後、最初のリングの前に送信されます。

注: デフォルトはBellcore(中国、N.Amer)です。

ステップ12:[FXS Port Power Limit]ドロップダウンリストから、フィールドの値を選択します。選択肢は1 ~ 8です。デフォルトは3です。

ステップ13:[Caller ID FSK]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID FSK標準を選択します。デフォルトはベル202です。

ステップ14:[Feature Invocation Method]ドロップダウンリストから、機能の呼び出しに使用する方法を選択します。オプションは、[既定]または[スウェーデン]です。デフォルトは[Default]です。

ステップ15:[送信(Submit)]をクリックして、設定変更を保存します。